

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04447

研究課題名（和文）スーパーヴァイザー養成のためのメタ・スーパーヴィジョンに関する研究

研究課題名（英文）Research on Meta-Supervision for Supervisor Training

研究代表者

福島 哲夫（Fukushima, Tetsuo）

大妻女子大学・人間関係学部・教授

研究者番号：60316916

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：心理臨床におけるより効果的なスーパーヴァイザーを要請する一環として、初心者スーパーヴァイザーの実施するスーパーヴィジョンを、熟練スーパーヴァイザーが、動画を基に指導する「メタ・スーパーヴィジョン」の効果を検証した。7組の継続的スーパーヴィジョンを3回メタ・スーパーヴィジョンし、全てのケースにおいて質的なレベルでは大きな効果が確認されたが、量的な効果は確認できなかった。今後の研究課題としては、いかにしてより多彩なヴァイザー・ヴィジューの組み合わせを対象とできるかが大切であり、実践上の課題としては、メタ・ヴァイザー側の負担をいかに軽減できるかという点が大切であるということが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国においては、心理臨床スーパーヴァイザーの役割や機能、さらには、どのようにしてスーパーヴァイザーを養成するべきかの実証的研究はほとんど見られない。そこで本研究においては、実践的研究として、スーパーヴァイザー経験のほとんどない中堅臨床心理士に、初心者心理士や大学院生をスーパーヴィジョンしてもらい、それをベテラン臨床心理士が、動画とSV資料にもとづいて指導するメタ・スーパーヴィジョンを7組各3回実施し、この方法の有効性を確認した。この結果は、今後、有能なスーパーヴァイザーを養成するためのカリキュラム編成に大いに参考となり、ひいては国民の福祉の向上に貢献することにつながると考えられた。

研究成果の概要（英文）：As part of a request for more effective supervision in clinical psychology, we examined the effectiveness of "meta-supervision," in which a skilled supervisor instructs a novice supervisor in supervision based on video clips. Meta-supervision was conducted, and in all cases, significant effects were confirmed on a qualitative level, but not on a quantitative level.

The results of the meta-supervision study showed that the most important issue for future research is how to target more diverse combinations of visors and visions, and the most important issue for practice is how to reduce the burden on the meta-supervisors.

研究分野：臨床心理学

キーワード： 妨げ外をアセスメントする力 ヴァイジューをアセスメントする力 介入技法の意識化と向上 介入の計画性と多様性 ヴァイザーの肯定的介入の増大

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

心理臨床の訓練の中で欠かせないもののひとつであるスーパーヴィジョン(以下 SV)について、それを担う立場であるスーパーヴァイザー(以下 SVor)を養成することが急務となっている。しかしながら、実際にどのような SVor がより優れていて、どのように養成すべきであるかは、明らかにされていなかった。

とくに SVor 養成において重要となる、初心者ヴァイザーを熟練ヴァイザーが個別に指導するメタ・スーパーヴィジョン(以下、メタ SV)に関する研究は Watkins(1994)や Hawkins & Shohet(2000)、Newman, F. (2013) などにおいてわずかに散見されるのみである。

さらに我が国においては、このような SVor の養成や発達に関する研究は、平木(2012)や平木(2015)の実践と報告がある以外にはほとんどされていない。その一方で、SV がスーパーヴァイザー(以下 SVee)にとってどのような体験となっているかに関する我々の研究(鈴木・福島,2015.や福島,2017)においては、「SV によって救われる」という体験や、「SV による元気づけ」がみられる反面「SVor に振り回される」体験も見られること、担当事例や SVor によっては、SV 後に緊張と疲労がさらに高まる場合があることが明らかとなっている。

また、我が国の指定大学院や専門職大学院の若手臨床教員は、その職務上 SVor になることを求められているが、その業務に関して指導や講義を受けたことはなく、「自分がこれまで受けていた SV」を暗黙裡にモデルとして使用するほかないのが現状である。また、日本臨床心理士会や東京臨床心理士会を中心に SVor 研修や、SVor の紹介などを行っているが、決して十分とは言えない。このような現状が上記の「SVor に振り回される」SV や疲労感を高める SV を生じさせている可能性があると言える。

こういった状況の中で、より効果的な SVor 養成のための基礎研究として、メタ SV に関する実証的研究が必要とされていた。

2. 研究の目的

初心者 SVor がおこなう SV に対する、ベテラン SVor の「メタ・スーパーヴィジョン」を複数の組み合わせで複数例継続的に実施し、その内容とプロセス、さらに効果を測定する。このことを通じて、より効果的で望ましい SVor の養成過程を明らかにする。

3. 研究の方法

SVor としての経験の浅い中堅心理士による SV を、5 か月から 10 か月にわたってベテラン SVor が継続的にメタ SV することで、SVor の実施する SV がどのように変化するかを、7 組の SVee・SVor・メタ SVor を対象に動画分析・量的分析・質的分析によって明らかにした。

具体的には、SV 開始後で SV3 回終了後・6 回終了後・9 回終了後の 3 時点にわたって、毎回の SV の動画と SV 資料をメタヴァイザーがあらかじめ視聴・検討し、メタ SV をおこなった。

VSee は 1 名の大学院生を除いてすべて臨床心理士で、臨床経験は 0 年から 3 年未満であった。SVor は全て臨床心理士で、臨床経験は 10 年から 15 年、SVor 経験はほぼゼロであった。メタ SVor は、臨床経験 35 年以上の 60 代男性臨床心理士であった。

SVee・SVor の主な臨床現場は、精神科クリニックや学生相談、開業臨床であった。SVee・SVor の心理臨床のオリエンテーションは、特定の学派に依拠しない、一般的な心理療法であり、あえて言うなら統合的な立場であった。またメタ SV は、Stoltenberg & McNeill(2010)の研究を参考にした統合的な SV であり、とくに「SVee のできているところをきちんと肯定し、課題は具体的に明確化する」ことを重視して、メタ SV を実施した。

毎回の SV・メタ SV の直後に SVor・SVee に、SV 作業同盟尺度(SV-WAI)、SVor・Co 効力感尺度、SV 満足尺度(SSQ)を実施した。さらに質的研究として、メタ SVor と SVor に別々に自由記述用紙に、全体の感想とメタ SV 実施前の SV とメタ SV 実施後の SV について記述してもらった。

4. 研究成果

実施した組み合わせは表 1. のとおりである。

表 1. メタ SV 実施組み合わせ

ケース No.	SVor(全て臨床心理士)	SVee	メタ SVor(臨床心理士)	クライアント
A	30 代前半女性	20 代女性大学院生	60 代前半男性	20 代女性
B	40 代半ば男性	20 代女性臨床心理士	同上	20 代女性
C	30 代後半女性	20 代女性臨床心理士	同上	30 代女性
D	30 代後半女性	40 代女性臨床心理士	同上	60 代男性
E	30 代後半女性	20 代女性臨床心理士	同上	
F	30 代後半女性	20 代女性臨床心理士	同上	
G	30 代後半男性	20 代女性臨床心理士	同上	40 代女性

量的研究としての質問紙結果は、SV 作業同盟尺度 (SV-WAI) と SV 満足度尺度 (SSQ) は、初期から比較的高く、途中で多少の変動はあるものの、明らかな変化は見られなかった。また、カウンセラー自己効力感尺度に関しては、大きな変化は見られなかった。

また、SV 動画の分析結果からは以下のようなことが見られた。

全ての SV ケースにおいて、「クライアントのアセスメント」「ケースマネジメント」「セラピストの共感や探索、直面化」等の基本的・共通因子的な指導がされていた。また、メタ SV においては、SVor・SVee 両者に関する「能力のアセスメント」と「肯定的フィードバック」、「課題の明確化」等がなされた。また、録音・録画を通じてノンバーバルな側面への指導も行った。さらに Stoltenberg & McNeill (2010) の統合的発達モデル (IDM) に照らし合わせると、7 名の SVee すべてが、3 つの主要構造「自他に関する気づき」「やる気」「自律性」においてレベル 2 からレベル 3 へと上がっていた。

質的研究としての、自由記述式振り返り用紙の代表的な内容を以下に示す。

「SVee の振り返り自由記述」

- ・メタ SV 開始後 SVor が待ってくれるようになった
- ・メタ SV 開始後 SVor が私の考えを理解しようと寄り添ってくれるようになった
- ・メタ SV 以前は、SVor の求める正解があって、それを理解しなければいけないような気がしていたが、メタ SV 開始後はそれらの気持ちが薄れて自由に考えられるようになり、それを自由に伝えられるようになった。
- ・メタ SV 開始前は SV で自分の苦手な部分やできていない部分が浮き彫りになって余計に落ち込むことがあったが、最近 (メタ SV 開始後) は「今日も行ってよかった」「新しい視点が得られた」と感じるが多くなった。
- ・「自分のカウンセリングをもっと磨きたい」という思いが強くなった。

「メタ SV を受けた SVor の振り返り自由記述」

- ・SVee に応じた、コメントの「仕方」「内容」を意識したり、SVee の臨床上の特徴や課題を伝えて、課題を明確にして共有する、といった事を意識するようになった。
- ・メタ SVor のコメントによって、介入方法のレパートリー、介入方法が増加したり、SV 全体の時間配分を意識したりできるようになった。
- ・動画を振り返る、という営みの積み重ねは、内省だけでは捉えきれない、自身の非言語的特徴や課題をはっきりと写しだすので、自分の臨床実践にも役立つものになった

以上、主な記述をまとめたものを表 2 . に示す。

表 2 . 振り返り自由記述から見られたメタ SV の主な効果

内容	SVor の記述があったもの	SVee の記述があったもの
安心感の増大	C, F, G	A, C, D, E, F, G
自信の増大	C, D, F	D, G
励みと責任感	D,	B
孤独感の低減		D,
CI をアセスメントする力の向上	C, D	C, F
SVee をアセスメントする力の向上	B, E, G	
SVee の介入技法の意識化と向上	B, C, F	B, C, E, F
SVee の介入の計画性と多様性	B, C, G	B, F,
SVee の自由度の増大	B, E	A, B, C, E
SVor の柔軟な姿勢の増大		A, E
SVor の共感的姿勢の増大		A
SVor の肯定的介入の増大	B, G	G

考察

今回の研究では、質的分析からメタ SV のポジティブな効果が、はっきりと示された反面、量的分析においては有意な結果が見られなかった。これは、本研究の参加者たちが全て動機付けが高く、初めから十分な熱意を持って実践していたため、作業同盟も満足度も一貫して高く、同時にカウンセラー自己効力感も、簡単には変動しないものであることが考えられる。

質的分析の結果からは、「安心感の増大」と「SVee の介入技法の意識化と向上」「SVee の自由度の増大」が、最も多く見られた。

以上の結果から、メタ SV の有効性が示唆されたと考えられる。

今後の課題

今後は、さらにより多様な SVor・Svee・メタ SVor の組み合わせによって実施することによって、より一般性の高いデータが得られることが期待される。また、本研究においてはメタ SVor の時間的負担が大きかったため、今後の実践のためには、メタ SVor の負担軽減の工夫の必要性も明らかとなった。

【主な文献】

Efstation, J. E, Patton, M. J., & Kardash, C. M. (1990). Measuring the working alliance in counselor supervision. *Journal of Counseling Psychology*, 37, 322-329.

福島哲夫(2017)初心者及び中級者への継続的スーパーヴィジョンの効果とプロセスに関する実証的研究．科学研究費助成 事業研究成果報告書

福島哲夫・西野入篤(2019)メタ・スーパーヴィジョンの効果と意義に関する実践研究 - 20代ヴァイザーへの3,40代ヴァイザー、そして50代のメタ・ヴァイザーによる介入とその効果 - . 日本心理臨床学会第38回大会発表論文集, 348 .

上野まどか・金沢吉展 (2011). 日本版カウンセリング自己効力感尺度作成の試み 応用 心理学研究, 36, 79-87.

Stoltenberg, C. D. & McNeill, B. W. (2010). *IDM supervision: An integrated developmental model for supervising counselors and therapists* (3rd ed.). NY: Routledge.

鈴木理絵・福島哲夫(2015)心理療法場面におけるセラピストの感情コンピテンスの発達過程. 日本心理臨床学会第34回大会発表論文集

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 福島哲夫	4. 巻 20-5
2. 論文標題 開業臨床のサバイバルモデル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 644-646
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島哲夫	4. 巻 13-2
2. 論文標題 カウンセラーは誰に話を聴いてもらっているのかー密な雑談と、訓練で悩み解決	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理臨床の広場（日本心理臨床学会）	6. 最初と最後の頁 33-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島哲夫	4. 巻 17巻1号
2. 論文標題 カウンセラーのセルフケアと自己点検をどう進めるか？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 87 - 89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 福島哲夫・田中新正・今井常晶・窪田由紀
2. 発表標題 臨床家とセルフケア
3. 学会等名 日本心理臨床学会第40回大会 構造化ディスカッショングループ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊小百合・福島哲夫
2. 発表標題 心理療法におけるポジティブ感情の相互的感情調節についての質的研究
3. 学会等名 日本心理療法統合学会第2回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三好真・廣瀬雄一・福田恵里香・木村詠美・福島哲夫・野末武義
2. 発表標題 これからの心理専門職教育
3. 学会等名 日本心理療法統合学会第2回大会 自主シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福島哲夫
2. 発表標題 大きな統合と小さな統合 - ささやかでかけがえのない心理療法を目指して -
3. 学会等名 日本心理療法統合学会第一回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福島哲夫
2. 発表標題 支援者へのキャリアカウンセリング - 「役立つ」カウンセラーになるための支援の 実践と研究
3. 学会等名 第24回日本産業カウンセリング学会ラウンドテーブル
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福島哲夫
2. 発表標題 「基礎と臨床をつなぐ」 - 心理科学と心理支援をつなぐ - 指定討論
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福島哲夫・上遠文恵・花川ゆう子
2. 発表標題 愛着トラウマを癒すAEDP（加速化体験力動療法） - SV・GSVを含めた、臨床ビデオを用いた事例研究(2)
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田歩美・福島哲夫
2. 発表標題 カウンセリング中のカウンセラーの反応が反芻・省察に及ぼす影響 - 抑うつとの関連を含めて -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上遠文恵・花川ゆう子・福島哲夫
2. 発表標題 愛着トラウマを癒すAEDP（加速化体験力動療法） - SV・GSVを含めた、臨床ビデオを用いた事例研究 -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹下亜美・福島哲夫
2. 発表標題 初心者セラピストの共感疲労についての研究 初心者セラピスト6名へのインタビューから
3. 学会等名 日本心理臨床学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福島哲夫
2. 発表標題 様々な心理療法に生きるコミュニティ心理学 - ユング心理学の立場から
3. 学会等名 日本コミュニティ心理学会第20回記念大会シンポジウム
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 福島哲夫（廣川進他編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 420
3. 書名 キャリアカウンセリングエッセンシャルズ400	

1. 著者名 杉原保史、福島哲夫（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 251
3. 書名 心理療法統合ハンドブック	

1. 著者名 福島哲夫（編集責任）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学研メディカル秀潤社	5. 総ページ数 630
3. 書名 公認心理師必携テキスト改訂第2版	

1. 著者名 福島哲夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学研メディカル秀潤社	5. 総ページ数 178
3. 書名 第2回公認心理師試験問題解説	

1. 著者名 杉原 保史、福島 哲夫、東 斉彰	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 308
3. 書名 公認心理師標準テキスト 心理学的支援法	

1. 著者名 福島哲夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学研メディカル秀潤社	5. 総ページ数 224
3. 書名 公認心理師国試必須センテンス	

1. 著者名 福島哲夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学研メディカル秀潤社	5. 総ページ数 176
3. 書名 第1回 公認心理師試験問題解説	

1. 著者名 福島哲夫他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学研メディカル秀潤社	5. 総ページ数 631
3. 書名 公認心理師必携テキスト	

1. 著者名 杉原保史・福島哲夫・東 育彰	4. 発行年 2018年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 215
3. 書名 心理学的支援法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------